



事業という杉の柱

代表取締役社長
安永 暁俊

今回は、「事業目標」や「企業理念」の説明をしながら、安永グループで働く一人ひとりが共有すべき「心構えや価値観、行動指針」安永WAYについて述べてみました。おそらく、皆さんにとって縁遠い話と感じられたかもしれませんが、もう一回だけ、おつき合ってください。

今回は、皆さんが各事業で働く上で必要となる「事業体WAY」について話します。事業体とは、本体事業部および子会社事業を指します。

事業体WAY

なぜ事業ごとに、独自のWAYが必要なのでしょうか？

各事業の風土や文化が、WAYに色濃く反映されているばかりか、その進め方を見ていると、各事業の「らしさ」が発揮されていました。

事業体WAYの活用

すでに皆さんの手元には、所属分の一冊が配られています。

そこには、先人が事業で育んできた心構えや大事な考え方が詰まっています。決して理想論を語っているのではなく、自分たちが歩んできたことを泥臭く、時に赤裸々に書いてあります。

読んで思わず笑ってしまうことや、なるほどと考えさせられること、過去の貴重な失敗談、ものづくりの哲学といえる考え方、起死回生の製品秘話等が詰まっています。

事業の発端からの歴史を読み進めて、その製品の成り立ちについて理解が深まったり、自分と同じような失敗例を見つかることもあるでしょう。皆さんが読み進める中で、共感してもらえらる部分があれば、これほど嬉しいことはありません。

すでに、WAYの考え方を事業内で広めようと活動が始まっていますが、私から部課長へ、皆さんに強引に押しつけないようお願いしています。

冊子には、部課長の皆さんの、次世代へ受け渡したいという熱い想いが詰まっています。ただし、あせりは禁物です。

WAYに書かれている内容を自発的に読んでみて、そこから少しでも気づきが出てくれば、それは素敵なことです。

それは、皆さんが実際に仕事をする上で、知っているのと大いに役立つからです。

安永グループは、全社の共通ルールを尊重しつつも、各事業の独自性を大切にしてきました。前号で述べたように、安永は「時の課題」を受け止めて、多くの事業を立ち上げました。

自動車、産業機械、電子・半導体、太陽電池、環境機器等の幅広い業界で、大量生産品や機械装置を手がけています。その中には、自社製品もあれば製造委託製品もあります。

そういった業界や市場、製品の成り立ち、取引慣習の違いから、各事業で独自の風土や文化がゆつくりと育ってきました。

事業体WAYは、これを明文化したものです。読むことで、三つの役に立ちます。

- ①事業で培われてきた価値観（ものごとの考え方や）等を学ぶことで、自信を持って行動できます。
- ②事業で受け継がれてきたルール（仕事の進め方等）を理解することで、仕事をする上での意義や目的が鮮明になり、仕事により円滑に進みます。
- ③独自の製品の誕生秘話や発展の歴史に触れることで、その製品に誇りを持てます。

時々、他事業へ異動した人から、仕事のやり方や考え方が全く違ってとまどったという話を聞きます。これは、どちらが善い悪いではなく、価値観やルールの違いと理解すべきです。

先日、お客様に事業体WAYづくりの概要について話す機会がありました。お客様からは、それは非常に良い取り組みだと褒められました。この取り組みは、他社からも大いに注目されています。

事業という杉の柱

最後に、安永WAYと事業体WAYの位置づけを整理してみます。左にある台杉という木で例えます。

安永グループという根幹は一つですが、事業が複数あって、柱が何本も立っています。

これからは、そういった困りごとが起こらないようにしていきたい。そのためにも、この事業体WAYを読んで、理解して、行動してほしいと思います。

事業体WAYのできるまで

安永の各事業には、面白い風土や、興味深い文化がたくさんあります。それらは主に、先輩から語り継がれてきました。それら、かけがいのない資産を文章にすることで、しっかりと後世に引き継げるのではないかと考えました。

そういった背景から、部課長の皆さんに「事業体WAY」各事業で働く者が共有すべき心構え・価値観、とるべき行動指針をつくるよう、私からお願ひしました。

部課長の皆さんは、始め、WAYという言葉の意味も曖昧で、とまどいも大きい様子でしたが、少しずつ変わってきました。

過去を振り返る中で、事業の転換期に先人が下した決断に触れたり、自分たちが歩んできた道を振り返る中で、改めて自分たちの強み弱みに向きあいました。

徐々に、WAY作りのメンバー間で、一体感や使命感が出てきて、最後には、「これが俺たちの事業の真髄だ！」と自信を持っている素晴らしいものに仕上がりました。

そうして一年余りかけて作っていただいたものが、部品事業部、工作機、ワイヤソー、検査事業、エアポンプ、管理本部のWAYです。

土台となる太い根幹は、企業理念を表します。横に伸びる取り木に当たるのが、全社ルールである安永WAYです。その上の立ち木に当たるのが、事業体WAYとなります。一番上の穂先に当たるのが、将来の理想像や事業目標となります。

つつい、華やかな穂先に目を奪われがちですが、それを支える柱が頑丈であればこそです。

これからも、事業という杉の柱を10年20年と大きく成長させていきます。事業体WAYを皆さんで共有して実行に移すことで、大きな穂が実るよう、全社員で取り組んでいきましょう。

